

平成30年度

「運営に関する計画」

大阪市立湯里小学校

平成30年4月

大阪市立湯里小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

学校で認知したいじめについては、「湯里小学校いじめ防止基本方針」に則り、学級担任を中心として校内委員会・職員会議等で共通理解し、学校全体で組織的に取り組むようになってきている。また、暴力行為を行う児童は少なく、前年度に1名いた不登校児童も、現在、登校することができるようになってきている。自尊感情を高めることを目標にして4年間取り組んできたことも成果につながっていると思われる。

しかしながら、発達障がいがあったり、集団にとけにくくかたたりする児童の自尊感情が上がりにくいことがわかってきており、ここに焦点を当てることが今後の課題と考えられる。課題解決のためには、ユニバーサルデザインの視点をもって個々の児童の特性を理解し、それを認めあえる学級づくり・学校づくりの取り組みを継続して行うことが必要である。

職員会議や校内委員会で情報共有は確実に行ってはいたが、具体的な対応策の話し合いができていたとは言い難い。そこで、学打ちの取り扱いをより明確にし、具体的にかかわる可能性のある教職員が少人数でより深く話し合いを行うことができるように進めていきたい。その中で、全体での共有を引き続き行うようにしていく必要がある。

また、命を守る取り組みとしての防災・減災教育については、防災訓練などの湯里地域あげでの積極的な取り組みに多くの児童も参加している。しかし、児童一人一人が防災を意識して自ら学ぶ姿勢には課題も見られることから、学校が主体となって地域・保護者と連携しながら、防災・減災教育の年間を通した取り組みを進めていく必要がある。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全国学力・学習状況調査や学力経年調査の結果から、本校の児童は自らの意見をまとめ、発表したり表現したりすることに課題があると考えられ、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、学習に苦手感を持つ児童が理解しやすい授業の研究を進めてきた。その結果、児童全体として「勉強がわかりやすい」と答える児童の割合が上がってきた。しかし、対象としていた児童に関してはまだまだ課題が残るので、さらなる継続した取り組みが必要である。

また、全国体力・運動能力調査の結果から、本校の児童は、立ち幅跳びの数値が低く、身体の使い方に課題があると考えられる。そこで、日々の体育活動や休み時間の取り組みとして、全身を使った運動を積極的に行っていくことにより数値をあげていくことを目指していく必要がある。

【その他】

すべての児童が楽しい学校生活を送るためには、人権尊重を重視し児童の相互理解を大切にする教育を進めることが必要である。そのため、外部講師を招聘しての学習や体験的な活動を計画し、年間を通しての取り組みを進めていく。たてわり活動やピア・サポート活動など、児童が達成感を感じることができるような取り組みが必要である。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成33年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 平成33年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 平成33年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成33年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。
- 平成33年度末の校内調査において、防災学習を行うことで「防災を意識することができた。」と答える児童の割合を90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成33年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各学年の調査を本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）
- 平成33年度の小学校学力経年調査における正答率6割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 平成33年度の小学校学力経年調査における正答率6割以上の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 平成33年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成33年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（立ち幅跳び）の平均の記録を前年度より2センチメートル向上させる。

【その他】

- 平成33年度末の校内調査において、「友だちとの様々な違いを理解し、わかり合おうと思うことができた。」と答える児童の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 平成30年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を82%以上にする。
- 平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- 平成30年度末の校内調査において、防災学習を行うことで「防災を意識することができた。」と答える児童の割合を82%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 平成30年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 平成30年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- 平成30年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 平成30年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（立ち幅跳び）の平均の記録を前年度より2センチメートル向上させる。

学校の年度目標

【その他】

学校の年度目標

- 平成30年度末の校内調査において、「友だちとの様々な違いを理解し、わかり合おうと思うことができた。」と答える児童の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

--

大阪市立湯里小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○ 平成30年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を82%以上にする。 ○ 平成30年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 平成29年度 0件 → 平成30年度 0件 ○ 平成30年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 平成29年度 1件 → 平成30年度 0件 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年度末の校内調査において、防災学習を行うことで「防災を意識することができた。」と答える児童の割合を82%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学級での児童の様子や実態について教職員間で共通理解を行う。</p> <hr/> <p>指標 職員会議や校内委員会等で学級での児童の様子や実態について年に12回以上話し合いを行う。</p>	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 ユニバーサル・デザインの考えを基本とし、児童が理解しやすい工夫をしながら、学級や全体での指導を実践していく。</p> <hr/> <p>指標 湯里小学校3カ条「人が傷つくことはしない、言わない。」「自分から、『おはよう』『ありがとう』『ごめんなさい』を言う。」「時間を守る。」についてのアンケートを学期ごとに行い、「意識することができた」と答える児童の割合を80%以上にする。</p>	

<p>取組内容③【施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 児童それぞれの特性や持ち味、生活背景を理解した上で、児童が自信を持って学校生活を送れるように、日々の実践を行う。</p> <hr/> <p>指標 年度末の校内調査において、「自分には良いところがあると思いますか。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 防災学習を、年間を通して計画的に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 平成30年度末の校内調査において、防災学習を行うことで「防災を意識することができた。」と答える児童の割合を82%以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標】について</p> <p>【取組内容】について</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>【目標設定】について</p>	

大阪市立湯里小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○ 平成30年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○ 平成30年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</p> <p>平成29年度 3年生 9ポイント → 平成30年度 4年生 8ポイント 平成29年度 4年生 8ポイント → 平成30年度 5年生 7ポイント 平成29年度 5年生 20ポイント → 平成30年度 6年生 19ポイント</p> <p>○ 平成30年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。</p> <p>平成29年度 3年生 9ポイント → 平成30年度 4年生 10ポイント 平成29年度 4年生 16ポイント → 平成30年度 5年生 17ポイント 平成29年度 5年生 11ポイント → 平成30年度 6年生 12ポイント</p> <p>○ 平成30年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>平成29年度 78% → 平成30年度 79%</p> <p>平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である(立ち幅跳び)の平均の記録を前年度より2センチメートル向上させる。</p>	

大阪市立湯里小学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【その他】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○ 平成30年度末の校内調査において、「友だちとの様々な違いを理解し、わかり合おうと思うことができた。」と答える児童の割合を90%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>年に一回以上研修を行い、自尊感情を育てる指導方法を研究・実践する。</p>	
<p>指標 年度末の校内調査で「自分には良いところがあると思いますか。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を85%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>いろいろな立場の人と出会う体験学習や異学年交流を計画し、実施する。</p>	
<p>指標 各学年の重点取り組みにおいてアンケートを実施し、「多様な体験学習は楽しかったですか。(低学年)」「多様な体験学習は自分のためになりましたか。(高学年)」の項目で、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>年度末の校内調査で「たて割り班活動は楽しかったですか。」の項目で、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p><各学年の人権体験学習></p> <p>1年 「ふれあい広場(地域の方々との交流)」</p> <p>2年 「和太鼓に触れてみよう」</p> <p>「おとなりの国のことを知ろう」</p> <p>「ふれあい広場(地域の方々との交流)」</p> <p>3年 「ヴァンサンク(特養老施設)を訪ねよう」</p> <p>「敬老の日のつどいに参加しよう」</p> <p>4年 「自分とお友だちとちがうところ」</p> <p>「車いすを体験しよう」</p>	

5年 「ソンセンニムに聞いてみよう」
「認知症キッズサポーターになろう」
「性の多様性について」
6年 「発達障がいてなに？」
「高木さんの話（被爆体験を聞く）」
「認知症キッズサポーターになろう2」
全学年 「青おに（作業所）の方々との交流」
「民族の遊び」
「ハギモイムへの参加」
「民族音楽会の見学」
「反戦・平和学習」

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

【取組内容】について

次年度への改善点

【目標設定】について